



美しい雪稜を辿る

八ヶ岳 旭岳東稜

大田原

【日時】 2011年1月9日(日)～10日(月)

【メンバー】L大田原、栗原

昨年天狗尾根へ行った際、下山時に眺めた旭岳東稜は白銀の斜面に美しいラインを描いていた。「あそこを登ってみたい」そう思って、すでに行ったことのある栗原さんに無理を言って、連休を使い出かけることにした。

山は雲に包まれており、天気は微妙。美しの森駐車場に車を停めて、林道を歩き出す。雪は完全に地面を覆っているが、深くはない。林道終点には新しいダムが出来上がっており、そこから伸びるトレースを追う。沢はほとんど雪の下なので渡渉に苦勞することはない。3連休の2日目ともなると、トレースはばっちりだ。道すがら、強風のため天狗尾根を敗退してきた2パーティーに出会った。体調が微妙だった私は、『まあ行けるとこまで行ければいいかあ、核心は明日だし〜』と思っていた。後にこの安易な考えは打ち碎かれるのだが…。出合小屋からアイゼンを装着し、ここからも続くトレースに行く。トレースは権現沢に入り、二俣の方まで向かっていたため、我々は早めにルンゼ状から小尾根に上がり、旭岳東稜に乗った。稜線には上ノ権現沢側から続くトレースがあった。ありがたく辿らせていただく。やはり私は体調がいまいちなのか、体が思うように動かない。急斜面を上がりたり下りたりしながらゆっくりゆっくり進んでいくと、先行パーティーのテン場跡が。核心手前の雪壁の下だ。『まだ早いけど、今日はここでゆっくり休めるな。』安心したのも束の間、栗原さんが「明朝の方が寒いから今日中に抜けよう」と恐ろしい言葉を発した。内心『え〜〜〜っ』だったが、「・・・はい」。動かぬ体に鞭打って、雪壁を登り始める。別に難しくはないのだが、どうしてもゆっくりになってしまう。ここを越えると核心部、五段ノ宮がガスの中に登場。栗原さんは2度目だからか遠慮してくれたようで、「リードどうぞ」。正直私はへろへろだったのだが、栗原さんにそれが伝わらない(泣)。とりあえずチャレンジはしてみようということで、ロープを着けて正面の岩場に取り付いてみる。岩トレも満足にしていけない身には、この寒さの中でのリードは無理があった。見苦しい様を披露しつつ、灌



【五段ノ宮】

木の下であえなく断念。ああ、情けなや……。左の草付に進路変更。ここも決して楽な登路ではなく、息切れしながらゆっくりよじ登っていく。体に力は入らず、ふらふらしながらロープを伸ばすが、半ばで力尽きた。2p目は栗原さんにツルベで登ってもらい、核心終了。念のためスタカットのまま3p稜上を進み、ロープをしまった。そこから旭岳頂上はすぐだった。頂上に出た途端、長野側から猛烈な風が吹き付けてきた。ゆっくりする間もなく、またもヨレヨレしながらテン場を探してツルネ方向へ。八ヶ岳の烈風は一瞬で頬の感覚を奪う。ガスっているし段々暗くなっていくし、疲れで目もよく見えない中で下っていくと、支尾根に迷い込みそうになってしまった。地図を取り出し、方向を定め直す。ツルネ手前の山梨側斜面に安全そうな樹林帯があったので、ヘッデン行動直前にテン場と決めた。



【頂上直下の雪稜】

風の来ない快適な場所だったが、雪は降り積もった。やはり体調が悪かったのか、私は夜半に呼吸の苦しさで胸のムカつきで眠れなくなってしまった。風の音を聞きながら朝を待った。

翌朝は快晴、体調はやはり今一つだったが、何と今日は栗原さんも体調が悪いと言う。思ったほど寒くないが、やはり昨日のうちに抜けておいてよかったのか。二人とも微妙な体を引きずりながら、消

えかけたトレースと赤布を辿りつつ下山した。

【行程】

1/9 美しの森(7:10)～出合小屋(8:45)～五段ノ宮(12:35)～旭岳(16:25)～ツルネ手前
BP(17:30)

1/10 BP(6:20)～ツルネ(6:45)～出合小屋(8:45)～美しの森(10:40)

【地図】 八ヶ岳西部、八ヶ岳南部



【ツルネより旭岳をふり返る】